

嶽ノ森山 ・ 峰の山

(写真 1)



(現場到着……古座一枚岩にて)

(写真 2)



(まずは体を解し、山筋体操)

(写真 3)



(さて、登山口からいざ出発)

(写真 4)



(早くも急登)

※山行日 …… 2021年3月9日(火)

※メンバー …… 計6名 (弥生班)

※コース (往路…車移動)

- ・和歌山市冬野. (出発) 7:00
- ・古座川町一枚岩. 駐車場 (到着) 9:15

(山行).

- ・登山口 …… 9:20
- ・嶽ノ森山(雄岳) …… 10:50
- ・嶽ノ森山(雌岳) …… 11:15
- ・嶽ノ森山(雄岳)・昼食 …… 12:00~12:40
- ・峰ノ山 …… 13:40
- ・水呑大師 (入口のみ) …… 13:50
- ・峯集落 …… 14:20
- ・薬師如来(峰の薬師堂桜) …… 14:40
- ・立合分岐 …… 15:00
- ・登山口 …… 15:20

(帰路…車移動)

- ・古座川町一枚岩. 駐車場 (出発) 15:40
- ・和歌山市冬野. (到着) 18:30

※自粛中でしたが、今年初めての弥生班の山行を実施しました。まだコロナ禍ということで、今回は、足慣らしとして和歌山県下での実施ということで、古座川峡の一枚岩の対岸に屹立する、嶽ノ森山(376m)と峰ノ山(482m)へ行ってきました。

(写真 1)の解説

- ・和歌山市を7時に出発し、道の駅一枚岩に駐車。この辺一帯は、古座川峡谷といわれ、約1500万年前~1400万年前、「熊野カルデラ」形成に伴い流紋岩質マグマが地表へ噴出する際の通路として、延長20km以上にわたる「古座川弧状岩脈」が形成された。
- ・一枚岩は守り犬の民話があり、毎年、4月と8月に巨大な守り犬の影が出現すると看板に書いてありました。

(写真 2・3)の解説

- ・リーダーの掛け声で、ミーティングで習った「山筋体操」を実施。誰かの節々の「ぶちっ」と鳴る音が聞こえ、大丈夫か?と心配になるが、気持ちは「がんばるぞー」と全員の体調を確認し、登山口の看板を横目にいざ出発。

(写真 4)の解説

- ・15分程で早くも急登となる。足場を確認し、一步一步安全確認し前進する。

(写真 5)



(鎖場)

- ・しばらくすると鎖場。道幅が狭く左側は谷底。

(写真 6)



(犬鳴谷を通過……鶯の鳴き声が)

- ・犬鳴谷を通過する頃、どこから「ほうほけきよ」と鶯が囀り、心が和む。誰かが、「鶯のバックグランドミュージックは最高」と一言あり。ここは「犬鳴谷」ではなく、「鶯鳴谷」では？

(写真 7)



(奇岩の多い場所)

- ・古座川峡は、「天柱岩」「飯盛岩」「かもしか岩」などの奇岩が多く、この辺りも、大小の沢山の岩があった。

(写真 8)



(岩の下でガマガエルの鳴き声が)

- ・せせらぎの真ん中に、大きな岩。その下から、異様な鳴き声。姿は見えないが、ガマガエルが出迎えてくれました。

(写真 9)



(窪みのあるナメトコ岩)

- ・ここは「ナメトコ岩」と言われ、苔とつるつるの岩で滑るところ。誰が付けたのか、ステップ状の窪みがあり、足を合わせると難なく歩行できる。

(写真 10)



(苔がありよく滑ります)

- ・それでも油断すると滑ります。手を添えて救助も……。

(写真 11)



(岩桧葉を採取)

- ・この辺は、岩桧葉の群生地。
少し頂いて、盆栽にと採取。

岩桧葉とはイワヒバ科の常緑、多年生のシダ。山地の岩上などに生え、高さ約 25センチ。茎の頂から多くの枝を出し、乾燥時には内側に巻き込み、湿気にあうと開く。枝に小さな鱗片(りんぺん)状の葉が密生する。

(写真 14)

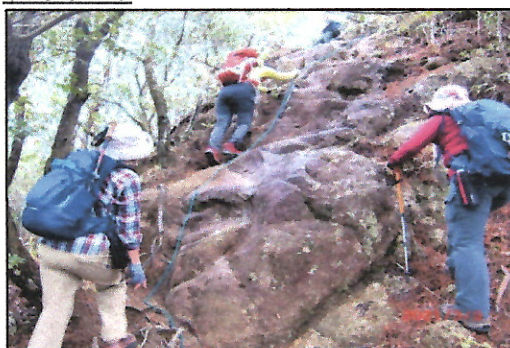


(雄岳頂上で記念撮影)

- ・これから向かう雌岳を背景に記念撮影。
昼食前なので、腹ペコと疲れ気味の表情。

時間は 11 時。昼食前に雌岳を往復するとの声で、一部のメンバーはここで待つとのことであつたが、リュックを置いてしぶしぶ全員、雌岳に向かう。

(写真 12)



(もうすぐ頂上—頑張ろう)

- ・頂上付近であるが、急登の場所。
ロープを掴んで頑張ってます。

(写真 15)



(更に雌岳へ進む)

- ・雌岳へは、ロープを使って下りと登りで、
片道 15 分。

(写真 13)



(嶽ノ森山、雄岳の頂上)

- ・やっと、頂上。
ここは、嶽ノ森山、雄岳(376m)。

(写真 16)



(嶽ノ森山、雌岳の頂上)

- ・雌岳の頂上は狭い。(369m)
バックは、雄岳。

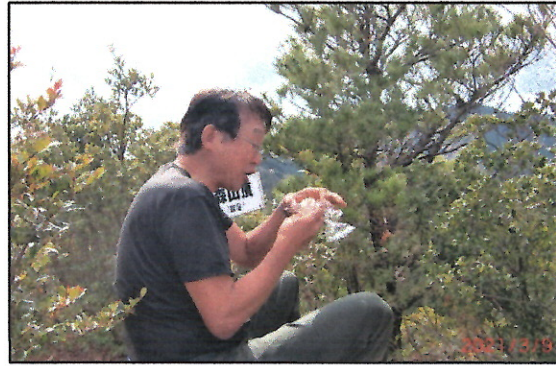
(写真 17)



(嶽ノ森山、雌岳の頂上)

・相手を変えて……。

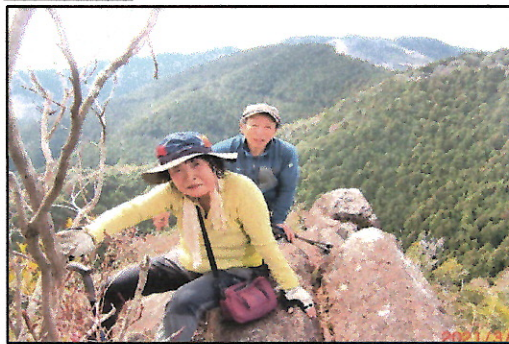
(写真 20)



(腹が減っては戦はできぬ……あ～うまい)

・12時の鐘がなり、ランチタイム。

(写真 18)



(嶽ノ森山、雌岳の頂上)

・雌岳の東側。非常に狭く、後は、崖っぷち。怖々とハイポーズ。

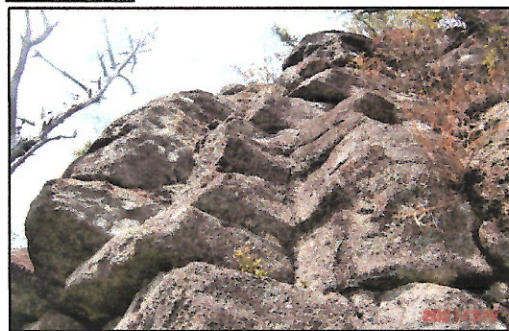
(写真 21)



(あ～腹が減った)

・山でのご飯は最高。
上の二人は釣り仲間であり、昼食中は釣り談義に花が咲きました。

(写真 19)



(豆腐岩？)

・雌岳を下山途中、豆腐岩を発見。と思いシャッターするも、別の岩でした。
豆腐岩は別の下山ルートにあります。

(写真 22)



(昼食後の雌岳での記念撮影)

・あ～満腹。天気も良く最高。

(写真 23)



(次の目的地へ、いざ出発)

- ・お腹も満腹したことで、重い足取りであるが、峰ノ山へ向う。

(写真 24)



(標識をバックに撮影)

- ・峰ノ山は景色が悪く藪漕ぎになるとのことで、入口の「峰ノ山・水呑大師」の看板で写真撮影。行ったことにしよう……

(写真 25)



(次の峰薬師へは、こちらです)

- ・二人のおじさんが、道案内？

(写真 26)



(峰集落、峰薬師の方へ下山)

(写真 27)



(杉の木をくり抜いた蜂の巣箱)

- ・峰集落で蜂の巣箱づくりを発見。途中には、沢山の蜂巣箱の設置があった。

(写真 28)



(薬師如来堂)

- ・14時40分、薬師如来堂で、山行のお礼参拝。

(写真 29)



(峯の薬師堂桜)

- ・薬師堂の前に「熊野桜」が満開。

(写真 30)



(下山後、道の駅一枚岩で山行の反省会)

※今回は、自粛後の足慣らしということで、低山を選択した山行でしたが、急登があり、ナメトコ岩といった変化に富んだ山で、熊野桜も観賞でき、楽しい旅でした。